

『ワンコイン健診』のケアプロ、「健診弱者白書」を刊行

～健診弱者の実態と健診の効果に関する調査～

(白書ダウンロード: <http://ow.ly/7kQVT>)

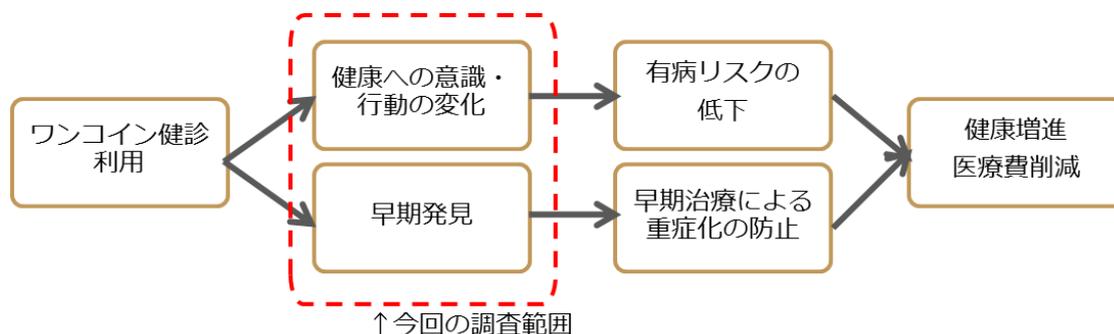
ケアプロ株式会社(本社:東京都渋谷区、代表取締役:川添高志)では定期健診を1年以上受けていない「健診弱者」3300万人超の実態と「ワンコイン健診」の効果に関する調査をまとめた『健診弱者白書』を刊行します。

ケアプロでは、1年以内に健診を受診していない者を健診弱者として定義し、健診サービスの提供を行うべく2008年11月より事業を開始しました。ケアプロが提供する「ワンコイン健診」は、生活習慣病のチェックをするための血液検査及び身体測定ですが、低価格・保険証なし・予約なし・結果がその場でわかる、等の特長があります。

糖尿病、高血圧症、脂質異常症等の生活習慣病が増加しており、その予防対策は市民の健康や生命の問題だけでなく、医療費増加といった社会的な問題でもあります。

このような状況下で、日本全体での健診受診率は64.3%と未受診者が少なくない状況(H22 国民生活基礎調査)です。糖尿病患者を例に挙げれば、健診を受診しておらず、知らないうちに重症化しているケースも存在します。

このような社会的課題に取り組んできたケアプロでは、これまでに60,000人以上に提供してきたワンコイン健診(2011年10月時点)が、利用者の行動変容にどのように影響しているかについて、有効性を検証するために、下図のモデルで健診後に健康上の意識または行動の変化などを調査しました。



<調査方法>

- ・健診データ分析
- ・協力者(ユーザ)に対するWEBアンケート調査・ヒアリング調査
- ・論文・公開データの読み込み

※調査・分析および『健診弱者白書』作成は「ソーシャル・アジェンダ・ラボ(SAL)」に依頼しました。SALは、NPO法人ETICが実施しており、プロボノで構成されるリサーチ・チームが、社会課題の解決を目的とする起業家に対してサービスを提供します。また、可視化された課題構造や、解決のための示唆を発信することで、課題の社会化を目指します。 <http://www.social-agenda.jp/>

<調査から得られた示唆>

■ 健診受診状況

フリーターや無職、主婦(夫)には、健診が制度上、行き届きにくい現状がある。主婦(夫)の約半数は未受診であり、他の就業形態と比べて860万人と人数が多い。

- 主婦(夫)が未受診となる理由としては、家事・育児で時間がない、会社負担ではないため費用がかかる、といった点が挙げられる。
- 不安定な雇用形態により、未受診となる若年男性が存在する。一方で、一般常用雇用の場合の健診受診率は、77.3%と職業別では最も高い。

■ ワンコイン健診の有効性

ワンコイン健診によって、有病リスクのある人を発見している。

- 時間・お金の二つのネガティブ要素を排除したワンコイン健診は、手軽な受診に結びつき、有病リスクのある人の発見に貢献していると考えられる。
- 発見後に受診者の行動変化が見られたのか、早期治療による重症化防止にどれだけ貢献しているかの検討は今後必要となる。

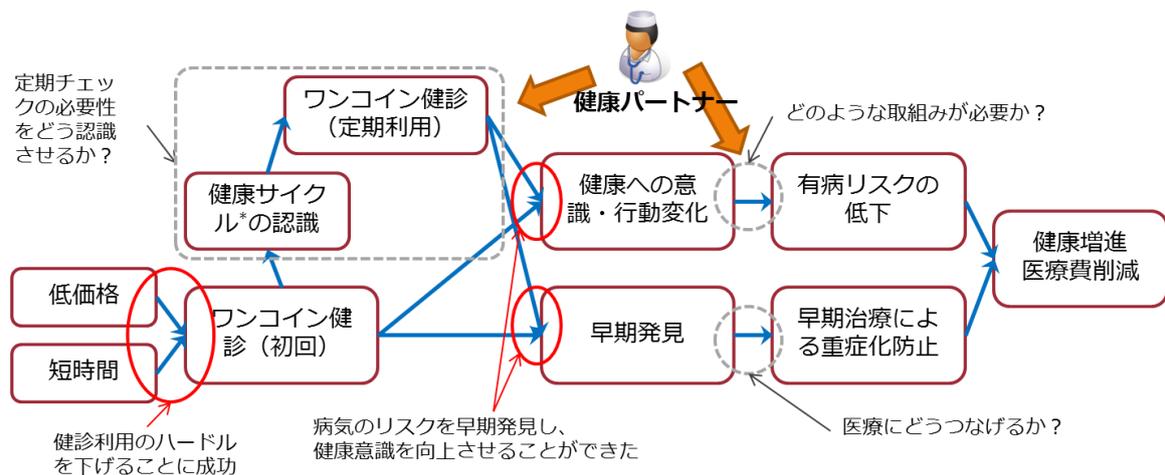
ワンコイン健診は、健診弱者にサービス提供できている。

- ケアプロの1年以内健診未受診者へのアプローチは4割程度であった。
- 残りの6割である健診弱者ではない人にとってもニーズのあるサービスといえる。
- 健診未受診者のうち約6割は、ケアプロの定期利用に結びついていないため、定期的な健康チェックの必要性の訴求が求められる。

ワンコイン健診受診者は、利用後の健康に対する意識に変化がある。

- 健診によって自らの行動を変えようとする者は全体の7割いた。その場で結果が出て、看護師のコメントが得られることの影響が大きいのではないかと。
- ただし、検査数値の改善にまで至ることまでは確認できなかった。
- もともと意識の高い者がワンコイン健診を受診している可能性もあり、その影響が行動変化ありの調査結果に反映した可能性も否定できない。

<ケアプロ利用者の行動変容イメージ図>



*ケアプロ健康サイクルとは、「1. 健康を考える→2. 検査する→3. 気づく→4. 行動する」のサイクルのこと。

ケアプロでは、今回の調査結果を踏まえて、更なる改善をしていきます。

また、今回の調査結果を厚生労働省・健康保険組合・自治体・産業保健関係者などの皆様に、ご活用いただければ幸いです。誰もが当たり前健診を受け、自らの健康維持・増進を行うことで、生活習慣病予防と医療費削減を実現し、我が国の医療システムを維持していくことにつながれば幸いです。

【ケアプロ会社概要】

ケアプロ株式会社は、代表川添が東京大学医学部附属病院で看護師としての予防医療に対して問題意識を持って東京大学医療政策人材養成講座を受講中に「血液検査」事業を構想し、卒業研究として事業計画をまとめたものが、同講座優秀成果物「特賞」を受賞、これを実現させるため、同講座で初めて株式会社を設立しました。

社名：ケアプロ株式会社

理念：革新的なヘルスケアサービスを提供して健康的な社会づくりに貢献する

業務内容：予防医療事業、健康データ管理事業、看護師・保健師派遣事業

設立：2007年12月

資本金：10,000,000円（資本準備金10,000,000円）

代表取締役社長：川添 高志（看護師・保健師）

医療監修：小池 宙（医師）

所在地：〒164-0001 東京都中野区中野 5-52-15 中野ブロードウェイ 1階

電話：03-5942-8981

HP：<http://carepro.co.jp/>

代表者：川添 高志（かわぞえ たかし）

1982年10月、神奈川県出身。

2005年3月、慶應義塾大学看護医療学部看護学科卒業。看護師・保健師。

2004年4月～2006年3月、在学中より経営コンサルティング会社に勤務。

2006年4月～2007年10月、東京大学医学部附属病院で看護師として糖尿病教育に従事。同病院勤務と併行して東京大学医療政策人材養成講座を受講中に現在の「血液検査」事業を構想し、事業計画としてまとめたものが、同講座優秀成果物「特賞」を受賞。2007年10月、同病院を退職し、さらに事業計画をブラッシュアップし、2007年11月、慶應義塾大学 SFC Entrepreneur Award で"The best new markets award"を受賞。

2007年12月、ケアプロ株式会社を設立。

NEC社会起業塾（<http://www.etic.or.jp/svip/>）7期生。現在、慶應義塾大学 KIEP および SVP 東京より支援を受ける。

第1回社会イノベーター公志園で「審査員特別賞」を受賞。

【このプレスリリースに関するお問い合わせ】

ケアプロ株式会社 <http://carepro.co.jp/>

担当：川添（かわぞえ）・上屋敷（かみやしき）

電話：03-4588-6728 メール：info@carepro.co.jp